新撰ミ葉韓雅猴第
明治歳時記栞艸
中

新選俳諧 明治歳時記栞草巻之中

東京 小築庵春湖 閲
仝 香楠居幹雄 編
仝 佳峯園等栽 校
大阪 黄華庵南齢 校

○去嫌之式

天象 三句去 ←もののはりて二句去なり月と月と六句去日と日と三句去星と星二句去なり
風體 二句去 隆物 三句去 ←もののはりて二句去なり雨と雨と共去なり雪と雪とも同動之類とあらとも三句去之
聳物 ←ものはりて二句去なり雪と雪と三句去なり
山類 三句去 名所 三句去 水色 三句去
春 五句去 夏 五句去 秋 五句去
冬 五句去 夜分 三句去 神祇 三句去
釋教 三句去 人倫 二句去 動物 三句去 生類とも
魚と鳥虫と鳥のはまたば二句去なり 植物 三句去 木と草とあるのはまたば二句去なり

居所（キヨショ） 三句去　衣類（イルイ） 三句去　金類（キンルイ） 三句去

飲食（イインショク） 飲物と食物と　旅作（リヨタイ） 三句去　宮室とも三句去なり扨面をうつしても無無へてうつ
品のはりて二句去　述懷（ジツクワイ） 三句去
ても二句去べし

○天象

天（テン）　太虛（タイキヨ）　虛空（コクウ）　大圓（ダイエン）　碧落（ヘキラク）　蒼天（サウテン）　昊天（カウテン）　玄天（ゲンテン）　穹窿（キウリヨウ）　半天（ハンテン）　日　太陽（タイヤウ）　金烏（キンウ）　陽烏（ヤウウ）　大輪（タイリン）

靈耀（レイエウ）　晨光（シンクワウ）　斜陽（シヤヤウ）　月　金波（キンハ）　銀盤（ギンバン）　氷輪（ヒヨウリン）　氷鏡（ヒヨウキヤウ）　玉兎（ギヨクト）　玉蟾（ギヨクセン）　玄兎（ゲントト）　常娥（ジヤウガ）　嫦娥（ジヤウガ）　桂男（カツラヲトコ）
夕映（ユウヘイ）　返照（ヘンセウ）

さらし男

星（セイ）　北斗（ホクト）　少辰（シヤウシン）　五星（ゴセイ）　水大木（スイタイモク）　金土（キンド）　客星（カクセイ）
流星（リウセイ）　南斗（ナント）　二十八宿（ニジユウハツシユク）　彗星（スイセイ）

天色ー　清色ー
恒ー　遊ー

日蝕（ニツシヨク）　月蝕（ゲツシヨク）

天河（テンガ）　銀河（ギンガ）ー漢　河ー　銀ー　星河　星漢　天津
絳河　斜漢　星漢　七夕の河　水四ツ河四国ともに川と
又名ふの時も水四ツなり雖之七夕のみは此河四国ともに川と
いふなふあり銀河七夕の面星漢ふ如の至象ともに二句去

○聳物　ふのはりて二句去二句つゞく
一句なれども拵る

雲（クモ）　霞（カスミ）　虹（ニジ）

運氣（ウンキ）　居氣樓（シンキロウ）　電（イナビカリ）　非表雅なり拵
書ものなれども

林なり　接孫（イウシ）　陽炎　野馬　月の暈（カサ）
陽炎　野馬

富士の烟（ケブリ）　ふのの烟（ケブリ）　杠行松芽木雪　霧（キリ）　霧ものの俗ものの面
の烟なり　杠行松芽木雪　用なり

○降物（フリ）　ふのはりて二句去
一句つゞく一句なれども拵る

雨（アメ）　雪（ユキ）　霰（シラレ）　吹雪（フブキ）

霙（ミゾレ）　霰（アラレ）　霖（ナガアメ）　白雨（ユウダチ）　雪ーまさ

露（ツユ）

○風体

吹（フク）　戰（ソヨグ）　芦の葉　風鈴（フウリン）　花吹雪（ハナノブキ）

扇（アフギ）　團扇（ウチハ）

○火体

烟（ケブリ）　炭竈（スミカマ）　燈火（トモシビ）　篝（カガリ）

火桶（ヒヲケ）　火燵（コタツ）　燵（スヘ）　火鉢（ヒバチ）

○夜分之詞　三句去　三句つゞく
一句なれども拵る

月　星　銀河　明星　星を行ふ
星月夜　名月乃対ハ夜分の意なれども　七夕　胜入　雪　添更　曙　榜書　横雲
暗　晩　篝　行燈　紙燭
燭台　燈籠　挑灯　燈燭　送火　清水焼火　雑談
多燭　燈明　燭　川　狩殺　辻番
炬　篝火　日待　覗猪　住吉の布　高の布とも
狩多賀　除狩　大三月　追儺　鬼やらひ　とも
庶多　妖怪　幽霊　枕　坂　坂帳
衣く　茅の輪　嬉　居眠　假寝　夢
寝言　鼾　初鶏　夜長　螢火　烟火
暁　東雲　花火　螢　燈火

漁火　蒲団　床　蝙蝠
〇非夜分詞
電　胜出　今日の月　名の月　星の月　月の月　月の月　月の月　月の月
青月　明方　明方　有明
へお　くらく夜　芦火　清灯　鐘
祈　梦幻　梦現　出の寄　泊
一夜酒
〇山類之詞　三百去　三百づゝ　百まても生てる
山　峯　嶽　岳　嶺　峠　高根
尾上　峴　岫　峡　麓
坂　九折り　羊腸　烟　関　山ある所　山門　函根　鈴鹿　白川　函坂　吳坂　函破
島　樣　澤布　岩竈　山焼
山姫　山雪　蔦蔓　岩橋　久米の山けし　岡

泊瀬（ハツセ）とも関（セキ）あるまじきなり

山彦の用ひしかの山彦へ古歌畳ふとこの二を

○非山類詞

越路（コシヂ）　吉野（ヨシノ）　三島（ミシマ）　浦路（スツノ）　岩屋（イハヤ）

氷室（ヒムロ）　渡海路（アハヂシマ）　鶉門（タツタ）　島国（シマクニ）　蓬の和（ヨモキ）

仙人（セン）　松人（ソマ）　猟人（カリ）　山鳥（トリ）　山路（ヤマヂ）

山梨（ナシ）　山賊（クツ）　山桃（ヤマモモ）　猪（シシ）

○水邊詞　三百も三百つゞくも一百すくも捨る

海（ウミ）　浦（ウラ）　溪（タニ）　湊（ミナト）　沖（オキ）

磯（イソ）　渡（ワタリ）　渚（ナギサ）　汀（ミギハ）　崎（サキ）

津（ツ）　洲（ス）　川（カハ）　江（エ）　池（イケ）

澤（サハ）　沼（ヌマ）　淵（フチ）　瀬（セ）　渫（クキ）

溝（ミゾ）　島（シマ）　井戸（ヰド）　筧（カケヒ）　樋（ヒ）

堤（ツツミ）　潮（ウシホ）　汐（シホ）　浪（ナミ）　泡（アワ）

流（ナガレ）　橋（ハシ）　渡（ワタリ）　吹石（アカシ）　松島（マツシマ）

辛崎一松（カラサキヒトツマツ）　流木（ナガレギ）　水屑（ミクヅ）　海藻（カイサウ）

蓮（ハチス）　菖蒲（アヤメ）　藻（モ）　渡萩（ハマオギ）

杜若（カキツバタ）　筏（イカダ）　藻（ソヘキ）　岸（キシ）

紅（ふねのなゝ）　海士（アマ）　漁火（イサリビ）　貝類（カヒルイ）　釣翁（ツリグ）

網（アミ）　水鳥（ウラノナ）　魚名（レウナ）　漁の石（ミラツリシ）　澪標

敷妙之香（ハウジヤウエ）　清水（シミヅ）　布晒（ヌノサラシ）　川狩（カハカリ）

塩竈（シホガマ）　田（ナハシロ）　黄代（ヒ）　泉（イヅミ）

○非水邊詞

天流橋（アメノウキハシ）　月の出汐（デシホ）　鵲橋（カサヂノ）　岩瓜（イハツボ）

彩玉水（チノタマミヅ）　氷柱（ツラ）　白門関（シラカハセキ）　天水（アツミヅ）

赤賀松（シガノマツ）　佐野の渡（サノワタリ）　但馬（スミヨシ）　室八島（ムロノヤシマ）

難波方（ナニハテラ）　思川（オモヒカハ）　三瀬川（ミツセ）

硯の水　苫屋　干魚　干貝　塩
梦浮橋　恵海　義天契　潮の湖

○神祇　三句去　三句つゞく　一句そもそもそゝる

伊勢太神宮　天社　地社
社　祠　玉垣　拝殿　千木　鰹木　菱葉　形代　茅の輪　後
弁樂　弁託　尊　傘　幣　ぬさ　大麻
弁樂　太〻〻〻〻〻　少笛絃　星風　里〻〻　所知女　榊葉多
高侘　高潔　幣帛　弁餅　序酒　散米
祭礼　贄　庁供　弁餅の俗称　初植
高庭　禰　忌竹搭　本後後　七五三

あぶ〻〻〻〻　丹後国天橋立　倭勢篠　木〻〻縁　移羽菅
宿身　俗に矢大尽と云　内宮流水　榊　弁馬
洗米　叩首　二拝四拍手　祝詞　文庫　拝殿　内弁殿　内後
祭　出雲衣　内外繞　よるべの水　船玉
切火　東遊　市殿　宿連　拍掌
齋主　弁官　宮司　初官　初掌
弁主　社人　禰宜　弁子　巫
八乙女　内師　神寂　文ちりて海　弁し

○非神祇

恵方　年徳　年男　男山　楊梅
依怙贔　詩田贔　詩文　詩弁　美濃の弁
山贔　放生門　精進

○釋教詞

諸佛の名
羅漢の名
所化
出家
虚空僧
頭陀
精舎
摂蔵
坊
卯塔
諸経の名
諸僧の法衣

諸菩薩名
大人
長老
沙門
僧
沙弥
尼
寺
伽藍
堂
庫裏
厨子
高坊
須弥壇
僧正
僧都
主殿
門跡
僧侶
眠蔵
方丈
五輪
行堂
塔
諸山号院号
諸仏尊類

仏祖の名
如来
能化
律師
鉢叩
新発意
舎利
数珠
拂子
五鈷
独鈷
証

蔵尾
天蓋
経巻
衣
極楽
地獄
初懺
論議
観念
彼岸
諷誦
血脈
非時
護摩

帽子
花蓋
夢
抹香
地獄
題目
持戒
頓写
十夜
座禅
禁足
灌頂
流物
生飯

笛
本尊
塔婆
錫杖
袈裟
如意
常香
桂杖
仏具
六道
三界六道
念仏
法問
破戒
百万遍
頭陀
看経
禅定
功徳
来迎
因果
作麻生

○非釋教 非紙すても釈なする二百去
煩悩 坊主藤等の釈なの相 二百づく一百すても拾る
法職人の釈名 法師法橋 釈なるすてる釈まあらば
頂学 書記 鐘 醫師の釈名

○兩部 非紙すも釈なする二百去
二百づく一百すても拾る
帝釈天 聖天 摩利支天 金剛天
持国天 増長天 弁財天 廣目天 毘沙門天
世天とは帝釈 非紙 樣非子 日待 月待
もはあ釈なり
庚申待 山伏 蘇民将来 鬼門 餓鬼 通夜
金剛杖 桂笠 桂杖
立願

非佛すてつらなる向 あ釈なり

○人倫之詞 二百去 二百づく 一百すても拾る
祖父 祖母 伯父 伯母 叔父 叔母 舅

姑 嫂 父 母 兄
弟 姉 妹 我 妻
嫡 息子 息女 女房 子
孫 夫 聟 従弟 甥
姪 親 壽 獨 孤
鰥 寡 聖學の名 偽法師の名
野良 傾城 娼妓 白拍子 藝妓 夜叉の名
実名 俗名 はの俗ーて知るべー

○非人倫之詞
帝 太子 皇子 皇女 本院
新院 院司 親王 宮 門跡
大君 公卿 法師 知事 縣令
奉行 地頭 代官 一門 他人

人間　長老　初商　坊官　某
凡夫　俗　八道　民　百姓
商人　職人　大工　旦那　貝代
私　門主　貝附　為替屋　為
檜物　門守　花屋　本道
外科　老若　雜兵　龍生　教
俗官名　寺の字　師医一　佛一　僧一　絵一　鋳物一
菌字　者　仏一　使一　医一　佛一　僧坊の官名
文一　芋一　儒一　勘一　縄一
釈迦の名

○動物

虫と虫　鳥と鳥　獣と獣　同生類三百六十五百つゝく
一百ゝても拵る
虫と鳥　獣と虫　鳥と獣　ふのゝりて八二百五十五百ゝも
三百をつゝく
○居所乃詞　三百五十　三百つゝく
一百ゝても拵る

家　屋　宿　庵　小屋
寮　園　亭　構　軒
書院　天井　店舗　棟　甍
玄関　囲　物屋　博風　梁
塀　庇　楊　鴨居　鴨橋
國　園　床　窓　礎
壁　畑　障

○居所用　本居ゝ居ゝ居ゝ居ゝ

村　里　町　但乃の字氏何町など　在　在書ゝ
ゝ命里でも居ゝ居ゝ居ゝ居ゝ

翠簾　釣簾　暖簾

○非居所用

皇居　内裡　倚廬　仏殿

多里　多玉　市場　芝居場　軍場

鞠場　京の戸

○植物

木と木　菓と菓　竹と木　木と菓

はりて八百もつづれも　一百まても拾る　はりて二百もつづれも

○不高不低植物

藤　葡萄　山吹　槿　蔓

牡丹　卯花　五加木　枸杞　竹

荊　茨　萩　木もつまても竹もつまても三百もつづれ

支体　支体つまても若のくびとのへとも　ふあるをおくこも同例

顔　目鼻　口耳聰　顔　足底　腹　背中

顔よ　足底　腹　背中

○病体

醫者　按摩　灸湯　鍼　灸

藥

○旅体　者のぼりて三百生三百　つづくこ百まても拾る

飛脚　送別　首途　本陣　馬借

問屋　旅籠屋　雲掛　轎屋　泊附

沽券　関札　本俱　川留　宿取

蒲雷法　小荷法　一里塚

○食類之詞

呑物と飲物　飲食とそのぼりて二百生二百つづ

○器財　器財つけても若のくびとのへとも　ふあり

武具よ　武具　家具よ　家具　鉄砲よ　鉄砲
硯よ　墨　文墨　はの書き用ゐる二方云　武具よ　弩　巻二竪
二方つゝ　二方つゝ
庖丁　平のはりてもなけてもおくゝ
てもゝ方ゝこのゝ
○書体　二方云　二方つゝ
書籍　状　文　玉章　文書の巻
巻紙　形写　夏書　席書　絵
手習　文箱　筆　硯　墨
朱引

○衣類之詞　二方云　二方ゝ　二方つゝ
衣裳　小袖　布子　褄　帷子
紙子　巻物　浴衣　袷　被
皇帳　襦袢　羽織　衣紋　繻絆
衿　袵　袖　袖口　袂

褄　裾

はかの若用のもの共ゝこれ衣類之

○非衣類詞
袈裟　袍　直垂　直衣　狩衣
素襖　小長衣　富士衣　居士衣　白張
浄衣　袖衣　上下　肩衣　十徳
法衣　篠掛　紙羽　襠掛　法被
裘　道服　羽衣　水干　水衣
奴袴　大口袴　襠　緋袴　縑袴
袱　蒔袴　立付　袴　脇袴
肩半　脇袋　裾袋　加賀袴　褐布
帽子　頭巾　袴巻　蓑　笠
絆切　三尺帯　足袋　襦袢
裸

喪服 衣服 喪服 礼服 平常 用せざる
官服 衣服 喪服 礼服 平常 用せざる
の外の衣服 喪服 礼服 平常 用せざる
ゆゑ

○戀之詞 五目 表 裏 なをつゞく百まで
捨ても捨ても古例 なり 祖父 母 一旦
てもよろ〜とのこと

喪服 素服 喪服

喪衣 喪服 素服

夫 女房 婦 妻

妻 女 娘

面儀 妻 女 娘

花嫁 花聟 八聟 妻夫 聟 元

傾城 遊女 昭岐 禿 戯女 白人

踊子 治郎 陰間 兄子 姦子

花車 若衆 達頭 辻売 熱嫁

美濃家 白粉子 嬢 後添 坊主漏

妹許 吝氣 惚 詢 情

形見 仇 契 恨

面 抵 紡 思 保

縁 忍 心中 衣く 鈍のもろ〜 歩行なり

仇 疑 恥 京〜 京〜 苗代 但仇敵と ぢりも京〜詞〜

うつまき 口説 私語 意慕 手を焦める

睦言 無言 千話 胸もさん 辻占

色狂 頻布 女の乃ぎ〜る時 結ふ帯〜 後句 思ふ女を色〜る型 鈍をいふなり

近まつり 目〜付せ 躍 呼 神〜

夜遊 人目忍 恋を焦 尻 尻る 垢 見 思女の

紅白粉を 乱髪 綿木 二尺はかりの木をいろ〜の彩色 な〜思ふ女の門 ふ 〜 ふ

人目関 流し目 尻目 下紐解 恋〜なみ

細布 〜ふの〜〜として 偶の特き布 て特ふ〜セハシ ふ 〜 ふ
なり 胸あひ 鈍きふ〜めを

口吉 娜娜 虫の印 守 女の印 〜 〜 て女の脆 〜
ぬまぶ 貞女 ふ ち 〜 不貞女

なびかるる　下焦　姿見
妬　呪　妹脊
口吸　妓有　厄占
結神　女衒　密通
離別　水祝　水揚
髮切　股裏　目元の塩
文　孕　占
子の雲　執杓　恵阻
情姫　嫁　伊達
頬摺　希もとり　八雲
爪紅　化粧　驚
玉章　忘八　揚屋
念者　金剛　中帯
白粉　口紅
嬢　二ぎ
立名　子来文
振袖　出合宿
腕突　搔切
袖留　物怪
二心　神彩
多枕　枕香
枕絵
湯女　前髪
帷　搔巻

誘惑傾城町名　初潮　肌ふれ
立関　深名　まるひこひ
ちぶ性
縋柔　名狩　見てり小性
添寝　袖の香

○非戀詞

奥様　後家　賤女　市女　桂女
中居　虜女　下女　田のり　樵
常　鏡　枕　学の文　旅の文
誓女　髪　三緣　夢
富執　乳母　洟　女婢　欲
于治　禄　内侍　天女　早苗女
佛日月星を祈る句
ひとこと言ふ時そこのこと句のようよう忘るもなるこ

○述懐詞　二百去　一百そも

寡　浪人　病人　幾子　乞食　今亡

老　白髮　三輪山　むの〜　奏事　オチブル

苔　苔衣　命　絶子　有の露

堰　うき世　世涙　古家　漁屋

○非述懐詞

賤　山賤　異　材木　翁

尉　茅庵　柴の戸　釣翁　賣炭翁

○無常之詞　哀傷ト　一百そも　一百去　軽き　三百去

ほうこう　鳥　多山陵　劔の山　三途川　葬所川原

死出の山　墓　野辺送り　死　人魂

魂結　幽霊　立酒　なきを人　地さし

古き祝　古き家　ふるき旅　棺

金銭　所せ　白骨　髑髏　冥途

板塔　中陰　長中　閻魔　地獄

長煙

○名所　名所ハ名所ハ名所ハ

二ノ文字 四玄　刑部うけり 七百玄
三の字より十の字まて二の字ト同し
百ノ文百 九百玄　刑部うけり 四玄
春ノ字も 春ノ字も 六百玄　四季 合百沈
赤の字 四百玄　非京遊の字ハ 四玄
月 七 五百玄　月次の月の字 二百玄
花 四 百玄　花の字ハ 二百玄
詩花 玄　詩香 玄　詩形 玄
詩景　蹴鞠 巻 夏　詩君 秋
詩菊 秋 四ノ月十ノ月の菊ノ玄
初雪詩　冬雪詩　雪の詩 四ノ字ノ玄
秋二 青 二 百ノ月の色
連歌　俳諧　風雅　数寄の道 冬 四玄

詩　歌句　短冊　文紙　小式
四季　俳諧楽歌 冬 四玄
伊勢の玉一　いせ屏　いせ海老　いせ鯉
いせ物語　いせもり神 年中の祭物うりて一ツ人
しれる 日 板式ハ十四ノ字
月ノ

東　西　南　北 北ハ罪ノ刑一ツ一ツ 百 仮しオ
角ノはれハ付てもよ紙てもよ 陸
鳥の形ノ字 鳥の形ノ字 鳥の形ノ字 鳥の形ノ字
虫の形ノ字　鳴も 音も 四ノ
鷹　鷹匠一　鷹犬一 時ノ人
鷹の巣　鷹の羽　鷹の尾 玄
樹鷹　毛ノ鷹　羽色ノ字 夏
初鷹　芸鷹　山別 秋
鷹の樹 トヤ　野鷹　離鷹 冬

(イ)出入 今幾 (ロ)(ハ)花 早 果
張 晴 (ホ)外 程 (ヘ)者 徑 (ト)
取 多 外 遠 間 其 止 留
時 所 通 (チ)近 後 (リ)又 溫
(ヌ)小 結 (ル)(ヲ)尾 杉 (ワ)割
命 我 他 浚 忘 (カ)方 拂
替 川 裁 通 風 魚 歸
(ヨ)夜 吉 (タ)為 立 絶 (レ)(ソ)主
初 袖 添 外 (ツ)其 付 次
他 結 遣 (ネ)音 子 根 (ナ)嗚
啼 益 波 夢 注 猶 成
雙 (ラ)(ム)出 無 (ウ)内 打 浦
恨 憂 請 上 (ヰ)鰻 壁 (ノ)登

(オ)音 置 為 追
押 思 多 (ク)来 其 雲
(ヤ)止 遠 山 頻 様 (マ)間
又 待 迄 廻 (ケ)願 削 (フ)吹
添 振 (コ)木 心 (エ)(テ)(ア)達 合 相 有
事 心 (エ)(テ)(ア)達 合 相 有
添 商 淺 (サ)里 去 指 様
下 文 小 (キ)切 来 関 源
木 消 (ユ)行 接 (メ)(ミ)道 訪
皆 見 水 為 (シ)下 補 杉
(ヱ)験 撰 (ヒ)日 引 人 (モ)持
初 本 減 (ス)住 流 末 捨
過

○同字別吟

酒の酒　田舞の田　大夫の大
志賀の賀　伯夷の夷　紙屋の紙
春日の春　一丁目の丁　代官の代
関白の関　接手の接　防風の防
代物の代　戒の戒　一二の一
旅の旅　筆の筆　中風の中
人の間の　半天の半　軽重の重
今の今　此の如き此彩なり此初めも今の此所より
春秋の春　さきの日見と付申と云ふなり

○付字之事

家と家と　家芭　家橋
家の子　家の家　家の家　三方去
朝の朝　星の星　弗の弗

乾の乾　雲の雲　蘭の蘭
鶏卵の鶏　紅の紅　黒の黒

此の如き所のほとんども文字の出所より
よりて別吟まあるべし

○賦物之事

杜氏徳元翁の一人言ひ初めし賦物のこと
連歌の法を得たりしなり是を本俳諧の
謎なりと云ふ　謎の如く戯れ以なり初めは
今なりしが花俳諧の連歌まで月の句なるべ
月俳諧の連歌行なれども言葉の面白き趣
を得ん申ばるべく事あり流れる賦物和一ゝ
寛保三癸亥年三月十日花屋亭にて
之あらもなり御覧ともなれば
なれば原板を記し

面白うもてあそびたり花月雪とも云ふ
後句の時雪の字形可うしばしとも仲あるみやびを
雪とも云ふ雪と云ふ月の名と成つるしたとも
花無雪無とも通ずると云ふ故梅行と成つる
らしとも梅雪と通ひ別云なると云ふ故なり
増何と成つる増雪と通ひて面白し
何とも云ふ雪月花と云ふ賦とも云ふ　下賦と云ふ
下賦とも云ふ

一字の字形とも　禾と坂と形る
二字の反音とも　菁と麥と形る
三字の反音とも　陜と理と形る
三字の中男とも　狐と梓と形る
除扁　除扁　偐音　苦と人と形なり家也

準して知べし

○月の句作心得

月　秋月　月夕　桂影　蛍の光　月の影　月夜の月　月の光　月と月　五句会　月次の月花　三百会　二百会
月の旬星　三句会　数と時と　月の孤生　月の中　月の梅　月の雨　月の雨　出影きらは余
月次の月　月の雨　月の雨　次の月とも年月此会は二百会　月代る新二百会　月の月　月の月
月の月　月の月　月の月　月の月　月の月　月の月　月の月　月の月　月の月　月の月
宗結句　月の月　月の月　月の月　月の月　月の月　月の月　月の月　月の月　月の月
月の月

有明　[illegible]一　以上四行なり　但し他の季なく一座共なりとしてもよし

夏月　月涼し　明あさし　夏の霜

秋　夏の季詞結びなり　句なり　但夏の秋月霜なり

秋の月　月冴る　雲なし　さむし　霜

月雪　秋の季詞結　雪なり　月の霜雪　枯なり　月の光

但句作なり　月凄し　月の出

汐　水なし　秋なり　月の海　秋なし　月の友　人作なり　月

の氷　月なし　霜なし　月の霜雪　降雪なり　月

の色　人作なり　秋なし　月なし　人作なし　月なし　友　人作なし

有明人　秋なし　なし　秋なし　月　秋なし　但会なり　月

なし　秋なし　月の

月明　明もなる　明なし

月の月　朝の月　月夜の月

雑の月とは雑月の付なり　月清月　月清秋　月の付

用ても秋なし　秋なし

まなりて秋なり　月なし　行る　月行　月行

月なし　月なし　月　雪の月　九月

夜なし　星月夜　雪の光なり

山端　付字　星なし　秋なし　秋なし　月なし　月なし

ら秋なし八月なし　十月秋　明の月　月の美名　兎　玉兎

明なし　月なし　嫦娥　常娥　嫦娥　恒娥　嫦娥　素娥　銀盤　金波

金鏡　桂男　月人男　玉娥　玉兎　水兎　玉娥　玉兎

けらの男　待宵　いざよひ　立待　座待　仰

待　宵中月　但宵中の月なり　月なり　但宵の月なり

もしも明なる月の出なりて　月の月を用ひし　座待なり

者なりとつかふべし　待宵の名を　○月の

系　月もみの会　月移り　月卿雲客

月毛の駒　星月夜　月次の月　月の

[illegible]なり　面の月

まる月なり

○花乃部

花 百種ヨリ四ツ五ツ花

枕ノ草 ―山 ―房 ―初― ―盛―

―守 ―庭 ―園 ―墨 ―笠

―素 ―簾 ―鈴 ―滝 ―乃雨

―雲 ―乃浪 ―雪 ―乃姿 ―

―乃笑 ―主 ―友 ―花の宿

―吹雪 ―結 ―の都

―蕊 ―藻 ―の

白 ―しめで ―鮮 ―結 ―宴

―島 ―へ

―家 ―車 ―桶 ―生

―篝 釈義なり但花生の付を非釈 ―四 ―篭 ―と宿

―と友 ―に

―と主 ―插の― ―まつの―

―花 ―蕊花 ―教― ―凡 ―に

―橋 ―橋の― ―に吉野

―吉野の― ―

―四花種類の三百五なり

○褒美乃正花

花の春 春立なり ―枕草子 花海 中華 ―手枕― 素立なり

―衣 衣裳なり ―枕袖 同上 ―枕姿 意なり ―

―枕 同上 ―夢 ―聲 ―娘 ―二条人作

―詞の― ―絵の― ―紋の― ―深草の―

―織物の― 絵のもの下種類よ 葩 ―種類の三百五

去なりとする西花なれハなり

一四　西花なり　一延　西を織りこむ絵などるけるまこ一
白なるもの数こと仰る桂翁の云なり

一神楽　一九番目　神の事　桂翁云　花の句ハ　神の事
五句去

花の散ル　梅桜の散ル西去事あるもこれ月の流るハ
ふ経花の散ル風仰ル所しれ一の仰事を風仰ハ

西花百韻　多個一句一句つなり花乃部
ムなり

白図色色自ゝ　とる花ハ事あるとつけ又　花ハ去
雪と付ることなり

壁付ハ　壁付ハ去壁ハ花若ハ　とる花ハ
文字壁ハ表
壁ハ付ル

花ハ月雪ハ　花ハ去所結句　桂翁云　雪秋意ハ結句
も名ハ白ハ

花ハ月雪ハ結ふ句　去ハ　花ハ意ハ結ふ
句　桂翁云　花ハ生ハ結ふ句　月ハ　月花ハ

結ふ句　花ハ去月ハ　他ハの花　る神ハ
ハ許ハ　一つなり　西花段

句　昭和三年七月　花の定座　桂翁云
より表の月ハ定ハ

△夏の西花　夏ハ　夏ハ西も　花

擂　金花　氷ハの花　子切ハ花ハ
去ふ句　つちぶまも桂翁
三句去なり

△林の西花　花大　花踊　花踊ハ去ハ
つちぶまも桂翁
二句去なり

△多代西花　踊り　桂翁なり　花見袋　花見
もち花ハ今品
二句去なり

△雑の西花　花ハ　花ハ　花ハ流ハ
結ふ句　雪月花　桂翁云　花雛　合物なり
三句去　つちぶまも桂
翁云二句去　一鞠　一ハ

○非正花分

花の帽子　名ハ帽子なり　一四帯　四上　つちぶ
ハハ黄なり

花　仕法のハ　一丁子　湯の一　一壁　壁ハ
なり

一壇（ダン）同上　糊（カウヂ）の花　大花　灯（トモシビ）乃一　丁子（ちやうじ）なり

茶（チヤ）花一　茶（チヤ）　蓮（レン）　紙　漆（シツ）色（イロ）乃一　名（なの）　蓮（レン）の名（なの）一　石蒜（キウガン）

六（ろく）の花　雪（ユキ）　一　町乃親王（シンワウ）　一　園（ソノ）覗（ミ）　一　頂山（チヤウ）

一　川戸（かはど）　時（とき）のかく氏（うぢ）の人（ひと）名（な）官名（くわんめい）なり　一　王（わう）　牡丹（ぼたん）

一　花蘭（ファラン）　同上　一　花源遠（インイツ）　勇（ゆう）なり　一　花光（ファクワ）　梅（うめ）

一　花子（ハナシ）　一　花宰相（サイシヤウ）　芍薬（しやくやく）　瞻（ネブ）きる　一　汚素（おそ）

きつけ　一　名（な）　三（さん）花　一　名（な）　まつむし　一　名（な）花　一　か

つら　吉（よし）蔵（ぞう）　四枚（シヒラ）花　一　吉（よし）陽花（やうくわ）　一　うら　紙（かみ）の異名（いめい）

○

（イ）　稲妻（イナヅマ）　妻乃（つまの）字（じ）を略（りやく）ス　一　光（ヒカリ）　雑人（ぞうにん）数（かず）を略（りやく）ス　本（もと）の字（じ）に西（にし）を略（りやく）ス　一

一（いち）て雷電（らいでん）　漁火（イサリビ）　漁（いさり）をする人（ひと）の家（いへ）　八（はち）　八（はち）の字（じ）

二（ふた）日（ひ）頃（ころ）の晩（ばん）乃（の）月（つき）も二（ふた）日（ひ）出（で）入（いり）は八（はち）時（じ）五（ご）乃（の）西（にし）

る晩（ばん）稲（いね）とむ（む）と新（しん）後（ご）四（し）の西（にし）なり

岩（イハ）　一（ひと）名（な）二（ふた）巻（まき）　窟（イハヤ）一（ひと）名（な）うの

四（し）の物（もの）を初（はじ）めとして（て）なり　今（いま）は岩（いは）一（ひと）巻（まき）なり　一（ひと）巻（まき）又（また）岩（いは）なり　一（ひと）巻（まき）

まて（て）二（ふた）大失（おほあやま）石（いし）も二（ふた）の西（にし）なり　一（ひと）巻（まき）山（やま）なり　一（ひと）巻（まき）石（いし）セキ

と言（いふ）なり　岩垣（カキ）　乃（の）数（かず）も居（ゐ）なり　一（ひと）巻（まき）

て一　お数（かず）をも略（りやく）ス

幾（いく）を略（りやく）ス　岩屋（イハヤ）　居（ゐ）る　一（ひと）巻（まき）

みて　西（にし）を略（りやく）ス　碁（ご）双（そう）　乃（の）巻（まき）

の乃（の）八（はち）四（し）の乃（の）なり　西（にし）の乃（の）なり

青海（マサウ）　七（しち）句（く）略（りやく）ス　碓（イシ）　乃（の）巻（まき）　一（ひと）名（な）　二（ふた）名（な）　一（ひと）巻（まき）

略（りやく）ス　乃（の）巻（まき）　一（ひと）名（な）　二（ふた）名（な）　一（ひと）巻（まき）　二（ふた）名（な）　一（ひと）巻（まき）　一（ひと）巻（まき）

略（りやく）ス　乃（の）巻（まき）　一（ひと）名（な）　二（ふた）名（な）　一（ひと）巻（まき）　二（ふた）名（な）　一（ひと）巻（まき）　今（いま）

池（イケ）　乃（の）巻（まき）　二（ふた）名（な）　二（ふた）池（いけ）　一（ひと）巻（まき）　一（ひと）巻（まき）　一（ひと）巻（まき）

池（イケ）　乃（の）巻（まき）　二（ふた）名（な）　一（ひと）巻（まき）　一（ひと）巻（まき）　池（いけ）　池（いけ）　池（いけ）

の乃（の）巻（まき）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）

三（さん）の乃（の）巻（まき）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）

巻（まき）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）　名（な）

名（な

岩木　人のしまつのなと　しるも植物なり

岩葺　植物

家　四まと　長脚のし

家の風　長かもの風の中に　白鳥の風のまと　白鳥

一文字　八なり　一村の一野なり　七月なり　二百姓

家色　八なり　七月なり　七月姓　二百姓

軍　一長年一年の花一年の花なり　是も車の長年と

最　しやむとなるこ

一洲し　一ある一洲なこ　一洲ある

ちなこ　いとけなこ　人作ある　長年

出さ　ふる法　一出さまのさまの　お二八百姓

いはぬ色　一出家を出家　二百　云ふ二百

七月なり　出さ　法山なり　出さ

ふ　二百姓　幾日　日数の日　二百姓

今　今年　出つよ　出つよ　出つよ

伽羅　まことに二百歩　今まで　いつまで家
　　なりて　二百歩　今まで　いつまで
　　なり　いつまで　いつまで
　　なり　いつまで　いつまで

（四）橋　屋敷の仰なり　今まで二なり　廬路　廬の面を略す　ろう
せ　橋　橋の面を略す

（八）素風　二度の風　二度の風　今まで　素風　二度の風
素性白　二度目一度目　二度の風を略す
そう　雲　雲を略す　端山　山の名を略す　濱　濱の名
端　端の　濱　二つ人
端　端二　二百歩　端の　濱　二つ人
端　端二　二百歩　端の　濱　二つ人
端　端二　二百歩

るとあるに用ゐ侵犯されるものを防ぐ意のはるゝんのはるゝ
などハ二句五字ゆ給巴の用ゐ雨月宇なども言うて字五なり
佛する二句五字に脈しすゝ実字どのをの同あ　針　抑ぬふ一
尤もろを字なゝ雨をるゝと二五ゝうに　五なり一
しねわりはりて　袴　衣形あゝに　法師　坊主詩
ゝ字皆釈
袴ゝ二句略　ゝやゝふ詞　かゝやゝふ詞　端唄
長唄ゝ二句略ふ　謀　謀計謀略なゝひゝて二なり　初字
四ゝショゝひゝて又四なり
面を略ふソノとよみゝてゝ二句五なり
あげて　二裾まくり
上ゝる之　はゝふ
二　西　二西方なゝゝひゝて二も五ゝ一　庵　只二寺一宇庵
はるかをゝゝ　ヨニーの例名
列なれども裏ゝ五ゝ一
庵例のゝなり　塙　一ぢゝゝて一ヂヤウとまるて一
ヤウとまるてよバ　ゝ五ゝ三ゝ庵の字ゝ面を略テイギ
ゝも略ゝに　庵ゝ　柳ゝ字の図　庵ゝ　柳ゝ古
面を略ふ　きゝふ
庵氏第　山　山彦ゝ庵ゝ面を略ふ今ゝ神楽の名ゝ板谷之意
山彦ゝ二句ゝ之　二の町　ゝりゝる　庵
燎　神祇なり今なり庵ゝ面を略ふ今ゝ神楽の名ゝ板谷之意
乃ゝ月はるゝ月をけゝ月をゝふ一月ゝ月ゝ月板谷ゝ班
ゝ字ゝ之神祇　名ゝ字ゝ二句　鶏　一鶏ゝ一列の名一
ゝなる之　きゝふ　つゝ字ゝ板谷之

一　犬　犬の名之物ゝも正花なる
ゝ例て桂樹ゝ二句なり
紅葉　中一之はのゝゝ面ゝ
ゝ物ゝ之ゝ月ゝ雑なり　一四　正花之樹ゝ
ゝのゝを面　桂樹なり　一やゝの　中ゝ桂樹ゝ
二句ゝ　一鯉　中花ゝ物ゝ
桂樹ゝ略す桂樹ゝ　二句ゝ
二句之　葵ゝ　ゝの神　桂樹ゝ略ふ　葵ゝ　桂樹
ゝの百ゝ面を略ふゝ行ゝ　葵ゝ
ゝ行ゝはりてゝ三句ゝ五なり今ゝ葵の名ゝ竹の
ゝ面ゝ面ゝ之ゝ五ゝ五ゝ対ゝ面又エフと言ゝて一ゝ上五ゝ一一ゝ一ゝ
五ゝなり　葵ゝ　ゝの名ゝ三句略詞　久を待ぬ木の
葵　四ゝ名ゝ名ゝ　ゝ略ゝ
ゝ八ゝ事ゝ葵ゝ　蓮　一ゝ名ゝ蓮切花　芭蕉
枝之一ゝ葵ゝ葵事ゝ名ゝ　又ゝ五ゝ一
ゝ名ゝ一ゝ葵ゝ名ゝ　鼻　一ゝ名ゝ鼻又
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ　みゝ一
ゝ名ゝ一ゝ名ゝ名ゝ　濱木綿　一ゝ名ゝ濱木綿
ゝ名ゝ　きゝ名ゝ名ゝ
むゝ名ゝ　法師ゝ名ゝ　はゝ　ゝ名ゝ　林檎ゝ名ゝ
ゝ名ゝ　ゝ名ゝ名ゝ　ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
回胞　一きゝゝゝぶ　まゝの　まゝのなり　ゝ名ゝ
ゝ　ゝ名ゝ名ゝ　ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
ゝの名　七句ゝ名ゝ名ゝ　路の字　四一　遠
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
三句ばゝり　ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ名ゝ
はゝのなゝゝ　只ゝむなゝき何句ゝ　晴る　雨雪
略ふ今ゝ名ゝ上ゝ三ゝ　ゝ名ゝ名ゝ

但一方角仏ようの板物あるいは今日刷の多意くごとき雑類なり

贄 二へ 非礼なり生魚を二角へ贈のまゝ一なるべく云々者別のごとく今日一八西素ハ非礼なるべく（生魚なるべく）

尾公 一尾一は五尾

星告鯛の事礼なるべく膳部一方へ累用市礼時より略る云々

なり元日あるべきはて肥後国方面彩色濃なるすべく仏

魚まで贈物とふもよれども

二へウヲと唱へなり今度は

同魚多獣生彩多細と

略ふ物まもれ日多あるべく

似なきる

ことへ

蒙古軍 楠物多二角へ多

本を物彩へ杉行

白ひ 多七角略ふ みげなし

賑 ぎはひ多礼詞二斗あるべし逃るなくふ

詞人多獣多けりて二斗かべ

鮒 多彩多付ごとは今日同志多なるべし物多匂を他多付て

花なども行者くべきもんなるべ物多べし

濁 同家の百二角去殺ハてそ

もそむとあるべし

ふ南 どまとを詞略を

はそとまり八二

白略ふ

なり

みて 二角去留り

七角去なり

ホ 量 一ホン 一斗 一七夕 一佛 一ホ百杉

的の一一月計おゝ裏多あるべし

ふ彫物 細江 多あるべし著

二角去なり 細江も多あり

一法 一ホ 一非なるべ礼内又二も

ある一一何ともわるきこと

布袋 袋多付ると略ふ

佛二 多さつ米共

多面を略

佛 ホトケ 呂二 多佛

一沙一ケ

ホ ヘ ト

多祝 郭公の内なり古詩白郭公も

あるは俗多の内古多なるて布穀多なり

今多杉多なるて

二なり

榻 ホタ 多へ

干瓜 ホシウリ 干瓜の類 楠物

多略ふ

牡 ボ

丹 タン 海棠 牡丹多

中国出ちまニッあべし

の流れ北沸多

多あるべし

蕊 ホイル 蕊多へ水

出多流れ

ほろ〳〵 ほろ〳〵 ほろ〳〵

多礼 多礼の一 多礼めく 一豆

多礼

ほろ〳〵 ほろ〳〵 ほろ〳〵

るとの内 多獣多はりて ほ礼見えてあ

二なり

の字 ジ 呂ばくり

あべし

帽子 ボウ 呂ばくり

えべし杉をきしふ

ヘ 多の字 ジ 呂〈多五ちは和なり多玉

居あるべ白きらふなり

終屋 ヘヤ 酒一一

厚一一

多一一 多やうの

多礼二斗あべし

甄蒙 ウタン 腸多さけ 多んの屋敷など

多仕べたらは楠物多べし

きらはべ

紅粉 ベニ 呂付るなべ

朱丹白多べ

平 ヘイ

二なり

多礼見べ又一一二

多 ケ 京二百

きらふ

下手 タ 一人 多

七角略ふ

多べ 一摺べ 汚べ

汚摺なり

多べ 一山神とふ白彩

三角ちべ

紅 ル 呂 明日を

の彩なり

年 トシ 呂 上世二初ん二何まも

面を略ふ生徒も年呂内べ

手紙 てがみ

七角略

世の的（トヨ アカリ）　歌あるあるあるあ

千代振 ものの名 二百脚

千代茅 四センと云へり

児 一名 株 木の内 又云

蒲の穂 沙茅糸 ちはゝなどの内

四月又云 一名 蒲の名

折す一つ つなり

茶 呂二一壺 一光 などの内

一名 ひざまもおもつて の色

一涼 一せん髪 ものの書 あり但

廉 二の色 一 百

一せんと白くとも出 ちゝ一つ

云へて又二色 一何まもおもを脚

年ちまを云へてなりともこと

ちりひぢり 廉泥 なり

ちりつさてこんむ

ちりつさとの

教 花 重 とにはりて 花 紅

三 白 ちなり 花 紅

ちの乃 ものを色 年

中風 風 三 白 契 呂二 色 人二

きらふ

り 誘 神 あ 四 なり 神 祇 なり 誘 官 あ 四 なり 神 祇 紙 誘 虎 乃 酸

あ 四 又 あ 四 律 乃 調 於 里 一 一 二 一 の 一 社 家

のの 長 あ ま あ 一 社 里

こん 茅 一 蓼 ぞ 誘 膝 ふ

ンタウとあれば 思 茅 又

折 を 脚 ふ 於

又 部 帛 神 祇 沼 二 滄 海 人 偽 ぬ ゝ や と

ぬ ゝ つ く 一 神 仏 す 礼 拝 ま る と ら ふ

主 能 人 偽 ぬ ゝ ど も 人 偽 年 又

主 脚 一 名 と ゆ め て も 人 偽

盜 ぬ ゝ ま る 百 脚 を 神 を

ぬ ゝ ま る よ

ぬ ゝ ま ま て な ど の 百 折 を 脚

濁 ぬ ゝ ま て な ど の 百 折 を 脚

年 又 ぬ ゝ 白 作 を つ て と

ぬ ゝ に 神 す き と れ て

ぬ ゝ ま る 七 白 脚

滝 の 小 神 ぬ ゝ 折

を 脚 ふ

ぬ る 二 白 と ほ と

二 白 き ら ふ

ぬ

二 白 と ふ の ぬ き 付 白

き ら ふ

ぬ ゝ ん 二 の 前 の 二 百 と 三 の 前 の 二 百 と 三 の 前 の 二 百 と 三

今一つあり男女とふ
男あり九七二の図と

てあ

未通女み　小忘衣非紙子出うちま四と女を連ぶ
ふ旬もあ初なれば二ちあ二のしに
雲女のもとハなと月中ゆれとも面をつてあ二むな白む女よ
杉を昭女れ一猫一犬一とうの形ちくあるされむ女まも女性
まも七旬昭ふ二一人伝なすば女房女性なぐ書ようみても二ちあ
ふ〜に女のゆ多くもひときゆ多ちきびれうと二ッ発あとの図一

踊　枝へくのうの拍てけるとなり
生影の一胸の一ちれをと人

小とり　行旬を昭

牡鹿のをよ　小のをるふの書ゆ昭
男鹿と云ねとさを一

よゆあまは白を昭ふ古海白さ線ちゆ小の書を昭ふ　をー
の泛非なりはサちまちる海ふサにーてふのくるあ一に

鴨よ　水ーきとふ用
を結てち秋へ

をけちくーじみ　意へ人伝
ちれ一に

小ふ冊　一海生ー一小鼓
ちひさきこ舟一

尾も　尾のゆもの書せる二旬へ
今ま尾もの書ゆ三旬昭

萩　一乗をとてみ二もあへ一今ま一他の書ち一伴野の
流一の四ま一はかテキクとあまあ二一一の焼京一の
ちまえあ長ふちまへ一歳ゆちあへ　かるくちみへ

を近
ーゆ風伴二旬昭但一のゆかちえなとゆ八風きらけぜ
二をちと斗二今ま一一とらひて一をちくてとらひて又あ二き
クをちと斗八二ッあ二一をちとちまをきをきもせる二旬へ

折　とち時用一今ま用
ひくちバ二旬昭ふ

拝　非伝月ゆのてちあて二あ
一をちとおハみもあ二一

⑦ 渡一舟　川四の一一
梶なり

脇さ一よ　力左ロ面
をきらふ

厳縄

梶和ゆ行ゆれ書をもゆ書せ
くくハ梶和ゆあ一

鰐口　生影ゆふ昭ゆゆゆ
してゆ生影ゆ三旬へ

海原　海ゆ面を昭
田ゆ書ゆ昭

ゆ田　梶和ゆ
二旬へ

ゆれ菓　只一ちを
又あ二一

若菜　只一ちを
又あ二一

若葉ふ　人のもとき面をきゆふなり
ゆ本一ゆ葉ゆを昭ふ

雑なり　花を結てゆ長へ
ゆの書ゆ二旬なり

若葉へ
みへ

稀美　ゆ
ゆをふ人伝のゆなり

ゆれ菓　一莖
美へ

ゆよ　本綿二旬
なり

ゆたこ

ゆれ　四を生などハ
二旬去なり

別　只二意ゆ二
今ま書ゆ

別よ　をなむけ二旬昭ふ分の書み用一み伝ゆ
二旬昭ふ人の別ゆ書の伝ゆ書ゆ伝ゆ神ゆ

意三きぬくを
三の分なり

意の別よ　きぬく二旬昭ふきぬくゆ七旬へ
意ゆの別ゆ書ゆ書ゆ書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紙子（カミコ）　衣類

頭巾（ズキン）の言　ものを絶せ
ふり物なり

首途（カドデ）　門の字七月廿四出の字
二月廿五日あり

かきのとう　柿のこなり

かこつ　居所
二月

上（カミ）　八之ウヘとあるべき
一ツつなりジャウとよて又四之出四の
月八月を始ふカミとよむ
とは月七月去なり

けいこうに　出
出へ

牧帳（カチヤウ）　牧大夫之ものの
牧大夫之ものの
牧大夫之ものの

牧　岩根衣伝是もつてこと
まのふ所おしもふ結今ぬる
ぬる

合戦　一いくさに
おを時ふ

かりふし　悪は一只二又風水など
かりふ　うふ面をえて
面を結ふ者まみ
二ヒとり十の字まで
ありても面を二ツ
方おハれを時ふ

懸（カケ）　懸
懸と

買（カフ）　買
買

牧（カヒ）の
牧

かくれなどと云　四斗五升
かくれ
お結一なとうる平家

中　〇三十

といりの事ふくあ事
ーーー色ふ事別なりとも云

ーそーても
枝なり

かーる　樫
仕月をきらふ

一又五ーあのまま
ひとと七月をと

協幅（カハホリ）　幅
なり

廉（カド）を伐て　枝
今物

ま奏之五月五の逆修諸書とのふ
をとんあめ赤をきて馬とのひ

分仙　人倍まあ
ひけ人倍なり
花と云
ー

楓（カヘデ）　りぢ面
をきらふ

かち栗（クリ）　枝物
ひけ

うげの花（アシ）
うも色藤まあ
猫のをきまを物

鰹（カツオ）

鴨（カリ）　まよ二枝
を結ても枝

うひと　一をあと
一ひと

かるもあく
猫のをきまを物

かくれ家（ガ）　五一所ものを
ーをきらふ

鐘（カネ）　五一公
吳の五八東五ー

かさ　笠
ー

冠（カブリ）　衣類
ー五一者そ

鍋（カツタ）
ー

笠（カサ）
ー

刀（カタナ）　かーは月彩
を時ふ絵を歩

とその内一巻は二之佛像法華なとの奇なり

祖 二句 たとへいふ所を云て祭なり

一説くと 看經 ヒ教

倩 こゝろ〳〵なるこの所の二句姪

方に 片付ても不著 かはら ぬ 松のひとなかまとなる所の二句八

片平も不姪 うち ぬ 雪 ゆきの

結枝 結ぶとは木の枝を結ぶ所の枝を結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ

枝の枝 枝の枝を結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ

なとの枝 枝の枝を結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ

之句の 之句の 之句の 之句の 之句の

一よ 世なとの世の事二句 かゝてぶひ 難之要 かゝ

わとり也二句きらふ

五に 二句 ゆり ゆる 結る 結る 結る

ゆるぐ ゆるぐ ゆるぐ ゆるぐ ゆるぐ

なり

高根（タカネ） 又二岳二今ハ嶺ハ皆面を接今ハ岩根のきね二句きふ

谷（タニ） 呂二名ハ二今ハ呂二名ハ一谷の戸居ハ二句之戸八の内之一の戸二戸ハ七句接ふ今ハ一の戸ハ面をきふ

滝（タキ） 呂二名ハ二花の一のく書ハ五一又山路ハ一油川ハ山路ハあ〳〵ハ

辰ハ之二句なり

田よ 一稲少も接ハ稲とふ稲とふ稲とふ

槽 一花ゆも きらもに、 魂 玉の字二句姪 別ゆまあまあ

命などを二句姪ふ恋の一一恋の命などハわをくて 面をき らふ恋の

恋一一ゆを二恋ゆ一命のかゆ又一 緋冊

ゆる面を きらふ 玉古代 一位左花 ととく 大ゆ オホイと云ふて面をきらふ

又大ゆたわ 付てふ若 大と丈 わをきらふ一名一丈物一本 一章ホロとなり

旅の字 四之今ゆ書ゆよみ ても以上ニなり 高ふ 名所の一 図一天 ハ三句ち

言の字 ハヘカウと云ふ ても八なり 頼 恋ゆ二口二今ゆ花の字五ヘ 内恋の字ゆ三三句もあヘ一

竹と竹 五句去一ゆ一四の里 二句きらふ 只とふ内 内の字 二句ヘ

給はる 給ひてなどの 河二なるべし たどる たをかゆふ新 付句を始ふ たど

思く 初去 ゆきゆ ゆつき きゆど 清ヘ 三本と云ヘ 文はの 三本ゆある 姪とゆあるも 古今を

ちこちのー一もたらぬとゆあるも 色ヘ 一花ゆ一ヘ あつを 五本と又

あヘ一たりたつき 仮の字なども 付ても 若ク に 古海 日ヘ 古

今の花 非なり 多つぎ たりと 一 仮の字なり 昔ゆ

なるる 二句姪 たりと云 二の内なり

(レ) 礼一一拍 拍一 ライ などく 暦く 内 二ツヘ 解縁と

云句 つふなる 二句 例なるぬ 一ゆ書ふ恨のことく書ゆよ むことなれあるのもと見 解

ゆも 必なり 保ら 表例 不例など云て一ヘ一 忘恨などゆ面

ゆ姪 傷を 中風など 以上 病の名ゆ 二句きりなり

まん字 ゆ もとゆ面 きらふ 連字 ゆわを きり 書ゆ

もりゆ 二句去

ことりいわ

(ソ) 空 ハヘはゆる 半天又ゆ一一ゆ 天久方 鑽物 松竹 苦水

空 井あつまゆ 二句きら 妙 暁 経 初の姪のこと

などの 煙胸の 旁男の 煙 ゆ

ゆ 二今ゆ三ゆる 園 一せとゆ三句 今ゆ一ゆ 二ツ 第一

咀 なれい三ツなり 紙一わなどのうち又ゆ一

卯面 二面の字ゆ 二句きら 今ゆ 卯の字ハ字ゆ なり一ハ

居ゆの用なり わうはりてゆ面のゆ五句なり

そはゆ川 なるゆ 姪 絶ゆ 二句人 傷ゆ あゆ 秋ゆ 今ゆ一一 水ゆ

ゆをとりゆる 古 なり 者ゆ一 れとなり 博水と 共 姪なり 流ゆハ

ゆ 滝むゆ ゆ 神の雨 一の 霧 世ゆ 姪 絶ゆ 古 旁ゆ 流

霧なゆ 流ゆ 姪ゆ 仕ゆ 又 霧ゆ 恋ゆ 涙ゆ 二句 涙の雨 一の 霧 世ゆ 姪 絶ゆ 古 旁ゆ 流

涙のとゆ 仕ゆ 恋ゆ 涙ゆ 二句 涙の雨 一の 霧 世ゆ 姪 絶ゆ 古 旁ゆ 流

仲なゆ 面ゆ 今ゆ一の 字ゆ 字ゆ 仕ゆ 面 神の濡ゆ 行

又木一 章ゆ 一 切去 風二句 そ丸 ゆ 一 ゆ

風 姪なり きらふ そ丸のこ 一ゆの

宣云（ソラゴト）　そらごとそらごとのひさしかるべきの　**存の字**（ソンジ）　二年五〇一

命　而一一名　何　四〇　**そ**　一字多くとる　二句又そとそも二句去　の新しきのれ　**ぞと**

そふ泡　字千四一六一　ふわ去

ツ　**月傳神**（ツキヨミノ）　名不〇一一の赤図おの名の神を名名不〇神に　**月**　四字一つ〇一と一との百寿なり　一〇五百五十四〇一五百一五四〇五百一五四〇五百一五四〇

妻 一戸一子などゝ云てまゝこゝ

使 人偏あるは使なり

つゝも髪 一髪わかち髪

ふ 一偏ボツくうこゝふ

つのふる 二字つゝ

つのはも

はせ

つゝしまうた

はまなさ 五二字

繋

つゝ

はせ

つとのふてゝ

つ

をは 一句三字

つゝし 七句五字

留り 四わかをくてゝ

㊍ 根おゆし 凡鄙なり

根 眺望なり

子の日 の年又五二字

根 人偏なり

稙豆 人偏なり

嵐 一火一本ア

猫 一ぴきのこと

侵人 人なり

関 年一二ツなり

竹の竿 竹の竿の一ツなり

森 一ツなり

根 一ツなり

根の糸

㊎ 鳴弦 弦の中に二句

眠 二句

言 二句

永日 一

法 二月二字一三四一八

苗代 植

名ことそれ 山なり

おつとり 物

法 流人

流人の異名なり

[illegible]

藤波（フジナミ）尾もの波水四

波の心（ナミ）

[illegible]

涙の露（ツユ）枯ノ涙ノ

涙の霞（カスミ）とゝそもそ

涙乃時雨（シグレ）冬ノ涙ノ二句

涙の霞（カスミ）枯ノ涙ノ

波の字（ナミ）二句

波の雪（ナミ）涙ノ枯ノ涙ノ

孤波の

うらみ 恨ノ

撫子（ナデシコ）二ツちゝなどゝ異名

とゝて又二句

人の名

人偏ノ但刀の跡ノ作者の名なきもの人偏ノ

涙（ナミダ）恋ノ

涙 神の涙ノ

て二句ノ又人の涙二句ノ

又神の涙二句ノ

なきに むすびき二句ノ又ノ

なきに 付句ノ

人の涙（ナミダ）多の涙ノ

中空（ナカゾラ）一中の空に

二句ノ

結ノ二句

なるに 七句ノ

人の涙ノ

二句ノ

波の字 四一礼東

（シヨウヤ）

習の字 ノ

名の字 ノ二字ノ一仏ノ

本の名ノ裏ノ

ノ

嘆（ナゲキ）こゝ 枯ノ

嘆の本（モト） 枯ノ

嘆（ナゲキ）ノ

嗚子（ルコ） ノ一字ノ一一一又四の一一の外縄篇

又もなどに付る一一又一ノ

野の字ノ跡字ノ一一と出句

一トウカンとまるにすみて又一ノ

菅（スガ） 枯ノ

菅の字ノ

仲立（ナカタチ） 人偏ノ中の字

中 二中五

ノて二字ノ一一一ノ一一ノ人一ノ

とあゝぶ中人一一の四ノ一陸ノ

四ノ

名残（ナゴリ） 名の字ノ残の字ノ

二句字ノ三字ノ

駒（ノ） 二斗五

なぐさめ

引二ノ一一ノ

枕引七句きらふ

詠（ナガ）め

詠ノ

鹿（ナビク） 鹿の偏ノ字ノ

きれ入て二ノ 枕

永の字ノ

二句ノ字ノ

なるゝ 目ノ

存命（ナガラフ） 二長

なづさひ 二なるもの

なるゝびの 一ノ

き鹿ノ

なめげ 一ノ

くなれ

なるゝ

なるに

なるゝ

かけらゝ れの字 二句

なる

なれ

なれなり

なるに

なゝん 七句

也 同ーしみなまでも云詞 なりにたり なごーつ きたる詞

四人今まる雲うの五ちなの用り 四稿まる白めさけをうて二五人し

人今ゐーーーなりー なーんの三のうな七白

ちなり白の用りまる白稿ゐ三つつなり

なるや なーーーなーん留 りる面くとうてハ

㋕ 礼巳 ー碁などるそ巳のミたを又一巳人ーー碁を

碁をとる及人ーーこれ碁巳人ーーこ

堀帽 ちの人ハのを和など

ーー法華し 白作ゐ人ハ非碁ゐ

らうたう 一いとをーーと いとけなし

らうた

ー 一うつ人ーーの

ーーきを云 宰人 うる見人ともむ 述懐なり

らむと

なん付白もゐ絶 ゐまる二白絶ふ

らんゐ をとらん ちーん ひ絶ハ一巳をねる

なれと付白を絶又二白を留り

る面 ちゐ さーん なーーーー なーーーーつきて る二ゐなは七

白きちふ留りハ わちゐ二白を

らーと らんらめ は巳を白きーふ

ゐーーーふもきーはぜ

㋩ 魚雨 村の巳まる二白絶 ゐまる村白二

非絶四花隆絶之

二ゐ人ーー

胸の雰 枝之意 從和さ二白

從和さ二白之今葉胸の雰ま雑て枝とゐる枝ゐる一きと

白作ゐまる人ーー 從和ゐる白 枝ゐる白

苟 ニ述懐之ーーー人 武蔵八幡 山形ゐあーーー水四ゐ

非ー巳ゐ巳ゐ二巳一ハ名

ゐとのふ一絶ゐ人巳の蔵を巳ふ

もりり古海白上の一絶ゐ巳とに

今巳ーーーハちふ名きてゐ巳巳ゐ

こもれり巳もりれりはふ学年の名之

ゐとそ 武蔵丸弱引 巳月巳ゐなり弱引のとと

絶ゐに 村 ゐ村面杉ー

出 只二ゐーー絶ーふの白ゐ二ゐまも抜と絶ふ蕃を

たりりふつゐーーとちどと云なるふのー又四ふふゐ人し

ゐのーなとゐ又引ふゐ人ーゐ今ーゐ ー裏のーふのーりゐに

ゐーー暗のーなとのやうなる巳をとりぬーのゐ面をの絶ち

むーのやふつふゐーふる 龍崖 絶ゐ人雑之今ーーー一暗ー

絶ゐ二白ゐふ人ーー などゐ巳て又一獄なり

烏帽子 むもの面 舞 ーの人ゐ巳ゐ

立和の戸 ゐ巳ゐ巳ゐ巳

むろのき さ 一株五寸ばかり

雑ノ 材の木の二句之今はむかしの一雑集なり

ウ 桑 一株一尺宗

うきあし 蘆の芽三句之今は海の芽の芽之うきあしの芽なり

埋火 埋の芽四句なり

桂田 州田なる桂翁の二

うぐひす 枯 枯なり

海 二名あり二ようなり

白玉 ようなのはまの玉を結ぶ

まゆ 蚕付て枯るを之名称と斗はきに固陸者一番屋子孔

久米之 のを之桂翁の二句之一と一又桂翁の白米ろろなり

五八 一名桂と呼ある

梅 一和物一名本の一一まの一一名

折ふくて五八

一名本の一一日出ちに咲ち

一名あり千歳ノ行ノ今ノ祝式ノ千歳ノ

一名句の梅の四梅のられ方俗と名五八

梅漬 一十桂

ありあ

ら江 雑之

蕨 一雑之也を結ける長ち今ノ

一之名あの一木又あ八

蓮華草

桂翁之雑之今ノ一八金

一一ふ方ち

埋木 桂翁ノ二句之

鶯 二句の名あり

と結ふ今ノ一一翁の名ノ一を

ろは所ノ美鶯童と衣者 ノ一嘲 一宮鶯衣名名和ノ

中の四ノ二五八一一四今者ノ一の歌名

して彩と結ふは花雑之名方用

結ふ又一ノ歌ノ名ノ名ノ名

一一一五 歌よ 中ゴ四てきらふ一ヨ謠七句始ふ小字ヨ謠同ゴ又一ヨ経冊四てきてふ又一に二武陽の五一云の七の五三一四六四連ゴ句も同ゴ句に云の歌ゴ句て言はしわをきらふ 謡よ 鶯のうぐふ四て謡 謡よ うたふ折をきらふ

能まと 同ゴ 生るこに 命云姫は死ヨ いのちきくふ 生るこ子 生情 ゴ

うべ 一応宴福なと云て信まうゴやと四ゴ句 なりムの仮名とはるるゴ ゴ

うぶとの句 二うち潮一うらゴ四一ゴ 浦をききられに うたう

と 一池とゴ云ん 稲名ゴ うきて紀 一うきとゴ 夢ゴ形去 うきび

のろ定 呪詛 調伏 ヨ形去なり

なびき松 一山松を ふ 恨 罪ゴ四一ゴ 今ゴ意情ゴ云は てゴ云ん四一ヨ ゴ 恨なして

ゴ云ゴ云へ一一ヨうゴゴみ意ヨ 結ゴ云ゴ七句始ゴ一ヨゴ云ゴ二句

二句去なり うつゴ一 ゴ四ゴて 二なり 宣植 矢もちも 四ゴ植 う

らゴ四一 浦の四ゴ山の字せゴ云ゴ植 今に云ゴ一ゴ云ゴ二句去ゴ 植 うはの字ん 京

位句御ヨ ゴ云ゴ一 うち 四ゴ二句去ん うちなゴ四ゴ 七よ ゴ四ゴ二句ゴ云ん 今に云ゴの字ゴと

うけりて云ゴ斗 ゴ云ゴ一

あゴ云ゴ一

腕よ 手七句去一ヨ ゴ云ゴ 橘ゴ云 うつろふ二句始今ゴうつ

ろひ知ゴて一ヨ斗ゴそうつ るにうつろ字ゴ句なり

七今ヨゴ二句 うつろかなすきゴ

始ゴ句なり 憂よ 知ゴうゴ四ゴ きゴ四ゴ ゴ ゴ 薄牛 ゴ 但句

ヨ斗ゴ四一 ゴ 虚ゴよ 御ゴ二 句ゴ うの字ゴ 薄ゴ 壷ゴ

字四ゴ 妙女 うはなり ゴ

井 ゴ二ゴ四ゴ二一ヨ井と称のゴ ゴ 稜 ゴ一ツ

燈ゴ拍ゴ ゴ四ゴ二句ゴ ゴ ゴ 一一ゴ井ゴ四ゴ名ゴ四ゴ名の一ゴ四ゴ人の名の一口ゴ ゴ 居の字 面ゴ

ゴ井ゴ ゴ ゴ

四四月上の卯日大初三時
九ちとゝ方今四月名目
ゝくの臭も
四の外ゝ
みせき
きらふ

おくて田 植初より二旬後
植初より三旬後
のことゝ植初
まで旬きらふ

鬼 一キヤウン一一まゝ一百合一一
ゝやうれゝゝき鉢いうせ物そもそもわをきらふ
ゝゝ一ゝゝ一百合一蘭の形の
四又わをゝてゝゝ
まゝ又五
一一

親子 二旬時ふ一一
つきそもゝ人倫

老 二多歟ゝ一本ゝ一人の一一二の男ハ形を殺ふ今ゝ一人多歟
本ゝゝけり三ゝ一ゝ述懐の初ゝ一の白甲ゝなゝ四人男皇
ゝせねゝとゝ但一比等一ホ不一つ一ゝ経なゝとゝ多て述懐
のゝけゝ一比一の男ハ他の一ゝゝ長き旬ゝ怪のゝゝゝゝに三ゝ一を
ゝつゝとゝを
ゝむゝ一

老ゝ 若付旬ゝ殺ゝに赤誠ゝゝ用経ゝ一今
ゝ一ゝあき右目ゝ一ゝ種ゝ
なゝゝ三ゝ旬比形ゝ三旬時ふ今ゝ一ゝゝ比盛者種の経を嘆く
ゝゝゝ右者一の沙法なれむ七旬殺一一ゝなゝ比旬仲なゝゝ
時ゝゝゝゝにまゝゝゝゝ比二旬きらふ初き目おゝり

海苔 二多歟の一一二一一
ゝのゝ一一雑ゝ柳ゝ
ゝ一一とゝ一一形を殺ふ一一今ゝり
柳ゝゝゝゝゝゝゝゝ社ゝり

海苔比丘尼 蓮ゝ十ゝ名ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

のもれ〜て外ス
二句あり 絶

あとれぶり 一大厳油とて 芦戸丸焼ス名云 大を

そ者 一ゝ〜ぼをふなり 万葉集ニ多クあり

あつらく 一句いろのるりを 延てらくと云也

あつらづも 一子供の衣長〜 ゝをとふ

とく 杉を焼ふオとゝごとゝ書 七句ゝオン四み四ゴ四ゝ〜 ゝゝゝゝともよめる云 ゝて三又五ゝ〜

ありてぐせ 二面ゝ〜なひう つゝゝん面ゝ伏る面云

あとゝ〜き 一名ろゝき とゝふ

面影 呂一ゝ〜一面の者 新の者共ゝ一句

又信の者も二句 年ゝ一一ゝ

孝 八之

起 ゝ名ゝ ゝぎのともゆてともゆるとも 一切森さゝ一ゝ悪し〜

奥の 陸奥ゝ

大二句陸一の柄 算面ゝ二句ゝ 思ひゝ ゝ悪し〜

せゝ二句なり 年ゝ思ひゝ ゝ四て陸ゝ二なり

思 一本ゝきゝ二句陸ふ思ゝ年一 ゝ面ゝ陸年ゝ

思ひとく 思ひとく 七句ゝなり

覚 ゝ面ゝ陸年ゝ

こ〜 一面ゝ面ゝ面目を ゝとゝゝをふ

音ゝ 孝 筆 二句陸ふ又一 一ゝ〜ゝ二句陸信

ゝ者ゝ者ゝ者

熊 ヒ一ーなり
ちはやなり

蜘乃舞 ヒ一ーなり

蜘乃糸 蜘蛛の糸なり

蜘乃網 蜘蛛の網なり

蜘乃巣 蜘蛛の巣なり

蜘乃子 蜘蛛の子なり

蜘乃蜂 蜘蛛の蜂なり

蜘乃蜂 蜘蛛の蜂なり

蜘乃蜂 蜘蛛の蜂

藪 ヤブ 只一ー桂又あるべし又
桂物語も竹も二句きらふ
ト名ハやとり雪のやとりハ
七句ちと 万葉集ものべ

竹と 四時 竹や笹やらやうれやの字面を久て公家
沼や海や糸やおのやうなる磯に付るやうに思ふ四時
とそなやの字ハ七句ハ二句四句ふ俗ハ句ふ者や
久て也 内ハオクと書るとてみべ
とりやはるは五句
象る ハ三句ハ

形 カタ 一ー一ー形
又べし

紫檀 ヤマブキ 山吹色
の衣又
ハ又一ー山の名ハ一ー名の衣一テイタウと書
る云て又ハ又べし藤ハテイタウ付ても山吹者ハ海田駿河ハ山
ハ藤ハ俗ハ
山吹ハ

桜 ヤギ 桜ハ二義ハ一義ハ桜
とハ一ー桜一ー桜一ー桜ハ
桜ハ
桜ハ

山琵琶 人俗ハ
人俗ハ

閑 ヤガラ 七句ハ

鵜 ヤリ 七句ハ
きちやー一ー桜

矢 ヤ 矢ハ
の一又べし

矢ハ
矢ハ

流猪鳥 ヤブサメ 弾弦ハ百ハ
年の矢ハ百ハ

山吹ハ
山吹ハ

山吹ハ
山吹ハ

袖 ソデ 袖ハ
袖ハ

一山ハ名ハ二義ハ一ハ俗ハ
俗ハ
一ハ山ハ名ハ俗ハ
一ハ山ハ名ハ俗ハ

やとて ハ七句ハ
ハ七句ハ

八重 ヤヘ 一ー重
八重ハ

宿 ヤド 二旅ハ一義ハ一義ハ一ハ旅
ハヤドリハ東ハ旅ハ

屋 ヤ 二義ハ二句
きらふ

屋敷 ハ
屋敷ハ

一ー敷ハ塩ハ
ハ一ー敷ハ塩ハ
ハ一ー敷ハ塩ハ
ハ

付ても
ふる
まびき 一たやきこ
ま
ふる百ゑ
おこ者ゝ
百ゑ
まさきりく 一たわの名
まさきの枝 杉一 杉の木を焼 たくさん
ても植ゑ
う松の
のこ
植ゑ
植ゑ
このみ 二まきとゝ
ともふ
枕 スゝ
浅ゑ
あるに
鞠 一よ一
まのの家 八こ
松のもの
松のもの 一
眼 目
まつけ
眉 目
眉の柔 四
まつ
まつ
まつ

ふるさと　今衣　意之　哀傷の人あまたゝび意よひろうなり
古枕　意と定むること七根定れ語なり一半紀のことを咲く
白なくば意なり一天下の人の死人の枕一何を意と定め
んや但哀傷なり一意の白なくぬるあるべ前句　ふ
ゝ月まて意ちるゝ一品不但せても哀傷なり
水　一五倍子水之俗　花衣　一喪服　ふるさと　第一二句
きらふ　源きこえ　三句略　ふるさとなりみる　一又海
仲ヨそ拾数見　卧　安分なり　振舞　又ふ一
ると出入
コ　木指　品一種抽ヨあ〜ば一一あ〜ば世分西れ風体いひ
うても三句之萩の葉ちなども二句きらふ又一一ま
系れなり〜　砂　二うち〜ひ一一枕一垂一一二の句形を
形を絶ふ　きらふ　きらふ〜ひさるひ回分今ま一五人
四一句ヒヨウと句ヨて五一一宗句五の句之又一一ま
月涙　垂意後　砂糖　なとれ形るも面をきらふ
木末れ秋　末の秋のこと　楼抽ヨ二句之　九重　故郷
これ意枝もきらふ　を絶
ふ年四一一ての末ぬとも長ふまあ〜ば名あまあ〜ば
故の易名之故ヨ面を絶ふ　四ヨ也勝ヨ一又九重
拙山　重ま天なと一九之一九文書八之四二句ことよみて五一し
重れ分れと人と一句七句一ヨくなるヨ二句之一ヨおり一
句付ても分苦うさめりらく八　花れ山　四句れ名ふ
面を絶ふ何ても意ヨ山ヨ　なりされも

コノトノ殿　居更之一一うふ　子
ヨ居ヨあまあ〜ば
一句歌の子二蜜歌の彩又ふ一一又一ヨ生歌の子七句きらふ
竹の子ちゝ三句之今ヨ子ふ一竹の子ひとり竹句を絶之
一一今ふ妻ふ子ヨ付ても苦うあ〜ば又一ヨ　ふるとなるむ
むもと和ヨちご孫面をきらふ
子ヨちゝ面情ヨ　浅家　浅家ヨ人居ヨあまあ〜ば　乞食
居なり
人居なり　妙蓮　小の字　小鷹狩　枝之猫狩絵
面情なり　ふ絶　狩八近の字を
ちとも　小鮒　水四ヨ七句絶　梢現　非絶之古語
面を絶　水ヨ七句絶　あ約なり唯一
ま〜ば　本末れ面　一一時句絶雨　本末ふちる
ヨ　ま〜ば雨　本末ふヨ　本の句末の字
日きなり　せ〜ま二句之　梢
四之本の句末れ字　本末猿　本末猿狩絵　苦猿
せ〜ま二句なり　梢ヨ二句之
梢ヨ之　苦れ狭　梢ヨ　苦遊　梢ヨ　苦れ衣　苦
湖ば　長意ヨ　ま〜ば　ムシロ　ま〜ば　長意
むしろ〜て　苦の戸　苦れ庭　梢ヨ　苦れ衣　梢ヨ
ま〜ば分なり　なり長ヨ之　なり長ヨ
なり梢ヨ之　本末ふれ衣　梢ヨ意形サヨ　衣　句ヨ之
ま〜ば　三句きらふ　花の一
七夕の一衣　衣記　冬之　約笠ヨ　小の字　玄
形ヨあ〜ば　小絶

年 ニヽヽ ニヽヽ 名ハ今ハ云フ処

越後 コシヂ 名ハ也ノ所ノ二句ノ

名ハ也 ひま 流ル也 巨燈 クヨ 火ノ台 燈ノ形

二句ノ 妻ナリ

ときらふ ナリ

昆布 コンブ 水ノ中ノ海草

米 コメ 穂ノ 穂ノ

天武ノ時ノ名ハ也 ハノ也 ハノ也 ハノ

ヨモ花ノ 穂ノ

ヨモ二句ノ

ヨモ上句ノ月ヨモ五句ノ

松 穂ノ ハノ杉 穂ノ

ヨモ上ノ月ヨモ五句ノ

ハノ杉 穂ノ ハノ杉 穂ノ

ハノ杉 穂ノ

ハノ杉 穂ノ

もあり〜は又ータのやうに二句続の
やうなるのもせきに句なり
一一林の風くとも　雨　四之去一一村一一林あるに二句長
ろうろうれ　雨雨一五月雨一降り一一れく
林一一四の雨ちおりをきちふ今る雨二又一天なるく青てて五
一一名の付るるーちーのものあるに句なり
雨よ　去一　村一　降ま雨降何也も雨を
きらふ　ためさめ七句きらふ
雨之　雨　数　降れ雨一降本の雨雨形を降ふ降〜れ冬に
一一　降の一又あり降る雨を降ふ降〜也
る降の一又あり降る雨を降ふ降〜也
地の降一雨降の一こを雨〜
林の秋　秋きんちる句　なんの雨
きく風雨なるく林の雨きと　林さむき　雨雨形降ちて五
ふ風二だうもあ〜一　雨雨
廿五二句降ふ　嵐　二又一山あるく一今ー三〜一四ちあの
降とも　久雨雨ま二の初〜一雨を降ふ風仰
のんなるく風ま二句　雨の久何きも　浪　久雨ま二句
よ　雨雨二句　嵐山　青を降てる風　雨坂　山形〜
きらふ　仰ま二句なり　雨雨を降ても風
ま二句　降　降　降　降
〜　降の田　二一一ま東　林の田　降森を降ても　降
雨を降ふなるく　あるきらふ　降森ま降〜れ森
降ま二句　芦や　降の大ま水田　東降ま　降
降ま二句　降　降　降　降

降を降ふ今ま二句降の
降降降

うしめよ　有の字二百之

枕詞之部　二百之

哭　哭の字も又哭なり

あらたま　荒玉　荒の字とも

まくら　二百姓

あらよ　荒世　荒の字二百之

ひろはよ　広世　広の字二百姓

高　一ひき人

麻衣　麻あさ　あさび

赤衣　赤あかき

遊び　二あそぶ二遊山一

遊石　遊びもの　遊石　遊の字二百之

あなとの河　一一一一うまあなり

ひろ　一一一一

あら　二一一一姓一一

あたらの河　一あれ

(サ)皐月雨　一梅の一又一一の一とろ一一一比あとろ出梅一一バイウなどもあるみてもつけこの河

之一一一二あ一ハれハ初梅　淀る　まあるつて二今ろ

ろのの日まりけりてろ之一一　まそろつて之

皐　冬一本之一梅之一今一今之さむさ一さる一又カンと

まつて一ろ之一一ひろつてもの日まろ日まりろ之一一

さろろろよ　まる雨を時ふまりむ冷一き

あつてろあつさ出梅つまも二百姓　淋き

二梅さび　梅さび　などの名一ひろ之　淋しきろ之

河なまでもろのあ之一一ろ之を時ふまくこの河徒梅

今ろ之一一又徒梅哀哀哀国哀なろこの河つまくろ淋一

きろも雨をろて今一出勝ろあつて一ろ之れ出ろてた徒梅

ろまろ之つ一ハ梅さびとろ言はされとひつ河なまとも之

徒の名ろまひ一きひろうまれ出まむこの河なり

坂　坂二名ろ之二

沢　沢二名ろ之

さざなみ　さざ波なり

橋　橋之部

高田　高田は橋形なろ名之

ふあ　ふあ橋

ふあ　ふあ橋

ふあ　ふあ橋

もろ〳〵を
雑人

散米（サンマイ）　紙幣紙なり
賽銭とも云ふ

酒　呉二斗二升
法日はかり出すなり

四人ある中に酒二戸ヲ戸破くるやうに嘉永五巳年ヨリ酒呉
一シユとも一斗ともいふ仮作系図を書き動るゆゑ
とのなをよみ（つるおの四
郎一統をつかつて）

酒礼碎（エビ）　人偽　酒ヨリ
それバ非人偽

さうもうた　一茶
雪

けうらん　一流
京西玄

けうめと　さうるまつ
京の酒

酒礼光（ヒカリ）
呉

酒礼影（サヤカ）　一戸呉
一の中ゆうゆ
とくてもの月を用ふ
秘かの人
年ヨリ酒ヨリ
一ひしりとて
二つ方のもの四の
名をつかつて
まるる人

たのもの　四人
年ヨリ酒の中ヨリ四
二つ方のもの四の
名をつかつて
まるる人

酒礼　二百玄
杯なり

さうふ酒　二百玄
杯なり

さうへ　二百玄

さうん　七百玄
杯なり

杯玄

され　本され
され杯され

杯され　本され　杯され　本され　杯され
杯され　本され　杯され　本され　杯され
酒の酒なり　呂さなれバ杯
命ヲ礼注ヲ
命ヲ礼注ヲ

（十）霧（キリ）　酒ヨリ
酒ヨリ酒の酒なり

酒礼海　酒の海中の
海つまも水

四つまあ
らい

礼籬　酒ヨリ二百
杯ヨリ

霧写　一礼ひま
又ヨリ

きけ〳〵きうよ　月酒の月ヨ
ともう二百

きのふ　呉一

菊月

杯酒ヨ
二百玄

小　二一斗一酒なり
よ〳〵ヨリ
ヨ二ヨのーヨ書ヨ玄
年ヨリのーヨ四の四

岑（キシ）　呉二
名

本月ヨ　ヨの中
二百杯

梅宇

四裏　大四　玄呉
ヨ二ヨ一斗ヨ
月の初　ふヨ
ヨ〳〵ヨの初
年ヨ城酒酒中酒外
四人杯ヨ城ヨ
杯酒の玄ヨ
四の四人杯ヨ

酒ヨ酒ヨ酒ヨ

白云

きびは 一ろうろうろう ～きろう

弓馬礼 ろうろう

きらふ 生絹ろうろう 外ろうはたん

関よ 耳二百姑 ひきく 耳きく 見きく

白見

仮名 流布形

紐 又あるべし

き

ろうきろうきろうき

酒 [illegible] めとのみてよをは

[illegible] 二百去留り [illegible]

めり 二百去留り めるやおに二百去

(三) 三百月光 [illegible] 月日を付ても [illegible]

三百月二百をとりて

あるつ一と

霊 雷七百陸ふ雨を云ふ [illegible]

[illegible] 一まあ連おのあくみ百陸ふ

[illegible] 経歯 二百けやを

[illegible] きあ一ふ

の歯一組をふ歯を

陸て又一あつ一

南 ナンとりひ

[illegible] 又一

一三角一ちの名あり千年忠一なと人の名ある一八山彩

もなくさる形ふ一とのふあるまあ面そうをときらを

崖 ふ 高根七百陸ふ尾山をふ [illegible] 一ふ高根ふの根を面を陸ふ

[illegible] 二百

[illegible] 七百陸ふ尾山をふ [illegible] 湊 水ふ

[illegible] 二百陸

[illegible] 七百陸ふ [illegible] 二百陸

[illegible] 二百陸

汀 ミギハ 呂一名あり二一

[illegible] 二名あり二

又名あつ一

[illegible] 二名あり二

階 ハシ 屋あり [illegible]

[illegible] 二百陸

[illegible] 一 [illegible] 百陸

[illegible] 呂二名あり二 [illegible] 二名

[illegible] 一 [illegible] 二

又一名あつ一

宮 一 [illegible] 呂二名

[illegible] 一 [illegible] 面をとつて又面つ一年

[illegible] 一 [illegible] 一 [illegible] 一 [

シ

塩（シホ）二焼 一二杯をとりてあつし
ちまきよりあつし 一竈より
くゝ之又目ゆとれ 一一らゝきき
よ一らゝき目ゆの 一一ゆひ
るなくゝ二句なり

塩なゝ 一水道 なり

山越（コエ） おを結ても
杯もあり

塩屋 所ある二句 塩やき人作
山路山杯水田ともよきこゝろなり

白粉子（シラヒヤウシ） 人作
高なり

出家 人作ハ

白髮（シラガ） 人作ハ

城よ 傾城つけても
こゝろなり

荀菜 一
えび

思ふ夢 枕の思
夢の思

椎茸（シヒ） 椎の枕
椎とも作

石

時雨（シグレ） 二仰ものの一一又ゝ一一又
時のもの雨ともよるゝ一一

東雲（シノヽメ） 夕二百目
のもの

雫（シヅク） ちぐり雨をきゝふ 作者松
苦山岩 くゝり北 松を結ん

清水（キヨミ） 雫
二百

雫月 作者
二句

志賀の山 高き松とゝの間水をとる
こゝをきゝふ山杯ゝを二句

清水せく 高く作
ゝきゝ杯雫付白斗きゝふ清水
ゝを二百 作者

清水 一水道
なり

志賀の
山

鹿 呂二名ゝ二句ゝ一二名ゝ
一水ゝ道 水道山杯

鹿の園 佛の法を説一鹿野苑
のゝ 結人作ゝ一一

柴（シバ）の庵（イホ） 柴の戸共
道作ゝ派

師匠（シヤウ） 師匠
志賀

白粉子（シラヒヤウシ） 人作
高なり

出家 人作ハ

白髮（シラガ） 人作ハ

荀菜 一
えび

柴（シバ） 一一柴一
柴の思 人

椎茸（シヒ） 椎の枕
椎とも作

石

絵の白 二白 畑

物思 物のおもひのおもせまし二白畑襖のあなたになり物をおもひもおもひもおのれもおもひも三白なり

物紙 なしく留り 二年あへり

物相 人倍人物の相を人倍あるべし

僧正 ことろはりてた 四もあへり

取 とらく 座の間に俱白仰 まるあへり

ものれ ものんで 一ものねくみ なり

ものなし 上の白下の白のとまりまし一づ なり年に上下れ白ものはりて

一ものせ 白 ものせ なり

二なり

関 関 呂二名あり一人月実も事あるべし年中の四クワンと名ものみてあへり年に庭の旅あるべし

冥 キセキ七白とせくとも云一之年も水をせくまをせく 涙のせくもはふきをせくもの四ま之之キセキも二白 なり

澎 白作ゐて 四なり

雪山 セツサン 天竺の名あり之雑之山彩 ーーまあるとはるべし山彩ま

あるべ

他人 人倍あるべし山彩ま雑べ

物をきらふ年ま二白ま二白ま人の事ま之白之

ーーとあるあへーまーしくとあるべしくあるべ

蝉 セミ 呂一日 ーーーー

七白ま留りた 物せくる回ゆく

せ

せんとらふ 泪 ものとらふ泪の 百二白きらふ之

涙きつま 冷ーき 二白ん

涙さまを 恋人ものあるま仕 ゐるるを雑之

ま

沈ーじきつま 冷ーじき 二白ん

涙と 水七白雑年 ーー二名あ

の松 名あ之 桂絶之ーーーと斗も 山彩之 清年の名あなり

三 滝 滝つま 滝の名の二白之 ま之年ま之白 ま之年ま之白ま之年ま之白ま之年ま之白

新選
俳諧明治歳時記栞草巻之中終

拾遺
俳諧歳時記草稿之中終